

500円の図書券と 当たる!

県立自然科学館の招待券が

当選おめでとう!



12月21日に市役所に来られた吉荒君子さんから抽選していただきました。

〔500円の図書券〕

- ▶佐藤八重子さん (下塩俵・42歳)
- ▶高井純也さん (庄瀬・8歳)
- ▶堀内一男さん (三の町・59歳)
- ▶吉川武文さん (下塩俵・9歳)
- ▶真保英介さん (下木山・8歳)

〔県立自然科学館招待券〕

- ▶丸山フミさん (下木山・52歳)
- ▶風間 彰さん (古川・34歳)
- ▶泉 博さん (万年・76歳)

広報クイズ ⑩

応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①) (A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をヘアで差し上げます。

はがきに答えの記号(例①) (A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をヘアで差し上げます。

今月の問題は...

① 風の資料や昔の民具、農具が展示されている民俗資料館。さて、どこにあるかご存じですか?
 ② ヨーロッパに日本を紹介するジャパン・ウィーク。日本を代表する風として、白根風合戦協会からも参加。ジャパン・ウィークが開かれた都市は?
 ③ 産業厚生会館内
 ④ カルチャーセンター内
 ⑤ 教育委員会庁舎内
 (ヒント①七ページ)

① 韓国ソウルから庄瀬にお嫁に来た吉沢文子さん。得意な趣味は?
 ② ソシアル・ダンス
 ③ 編み物
 ④ 紙粘土細工
 (ヒント①十六ページ)

前回の答えは...

毎月たくさんのお応募、ありがとうございます。前回はちよつと応募者が少なかつたので、当たる確率はグリーンとアップ。クイズで楽しみながら、家族そろって広報しろねに目を通して、市政についてご理解いただければ幸いです。県立自然科学館のご協力で、招待券もプレゼント。自然科学館の詳しい催しは二十ページの情報センターをご覧ください。先月号のクイズの正解は① (男性から最もよく読まれているのは「議会の動き」です) ② (A) (茨曾根に伝わる民話は「ねこ丸」) ③ (市が除雪する市道の延長は二百六十二・三キロ) 応募総数は三十二通で、全問正解は二十八通でした。

市民談話室

原稿募集

2月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111 ☎333) です。



坂井チセさん (中笠巻・農業・五十七歳)

今世の中、とても便利になつて、何もかも電話で済ませることが多くなりました。でも、自分でもらつてうれいしいのは、さりげない一言にも心がこもつた、はがきや手紙です。移り変わる季節の様子を書いたり、我が家の様子を書いたり。特にお年寄りの方には手紙を書きたいと思う私です。また

もうひとつの手紙

都会に住む人々には、今年の作柄はどうかとか、ナシの出来はどうかとか、野菜のおいしい季節だとか、知らせてやりたいですね。きつとまた、待っている便りが返ってきます。忘れがちな字も少しは思い出されるのではないのでしょうか。手紙を書いてください。お友達に。そして老いた父母に。



織田 護さん (北田中・無職・七十七歳)

上海の思い出 中国農民に分け与えたたばこ

昭和十九年戦艦への転勤命令を待機する上海で、陸戦勤務のときである。

中国の農民生活を実に気の毒に思った。日本の農民の苦しき生活どころではないのだ。兵隊の捨てた残飯を大人が来て、すくって食べる。私は何とか救えないかと考えたが、一兵卒では成す術もない。たばこの吸い殻をも拾いに來るので、これはなんとかなると自分たばこを止



樋口栄子さん (旭町・主婦・五十五歳)

心の触れ合い 旅先で出会った人たち

晩秋の飛騨高山、穂高、松本、妙高と、旅に出てきました。帰路、黒姫高原のコスモスが見たくて、季節的には遅いけれど行ってみました。背丈ほどもあるコスモス畑で、手入れに余念のないおじさんが「黒姫は空気良し、水良し、花がある。いい所ですよ」と話します。知らない人の話を聞くのも旅の楽しみの一つです。高原を後に、国道8号に出る道を畑仕事のおぼあちゃんに聞きました。すると「あなた方、コスモスもいいけれどなんととっても水が最高だよ」とのこと。その言葉に、主人と「家に帰ってそんなおいしい水

でコーヒが沸かせたらね」と話していると、水の場所を教えてください「向こうに見える家が私の家だから、今一升瓶を持ってきてやるから」と言い終わらぬうちに走り始めておられました。胸が痛くなります。汗をかきながら、持ってきてくださった瓶と「お茶のときに食べてね」と甘納豆を手渡してくださいました。

今来た道を逆戻り、教えられた「大きな電柱の下のトヨ」を探したけれど、私たちの探し方が悪く、帰る時間も気になるのであきらめました。

市民文芸

川柳
 一輪の花が温める六畳間 田村 恒夫
 一円て建つ初夢のマイホーム 中村 尚治
 ほどほどの線引くことの難しさ 西条 ムラ
 ショーウィンドーの飾りに四季を教えられ 早川 英男
 愛しい孤児に架けたい虹の橋 山岡 フミ
 眺めよし味は自慢の繁盛記 吉川 彰
 十八万票の落ち葉が埋める第三区 米野 光雄
 釣り銭が小銭になつて余生 今井 七郎
 尾を引かぬ列れに握手強くなる 織田 セツ
 まだ若いから慎んで顔に出る 大塚美代子
 幸せの裏に隠れていたドラマ 後藤マサノ
 本物の顔が財布の中にある 佐藤トミノ
 保育園にもボスがいる滑り台 佐藤 ヨキ
 金持ちと変わらぬ暮らしして嘔き 高橋祐四雄

俳句
 本人の知らぬ噂が闊歩する 竹石 甚五
 さりげないポイントとなるネックレス 田中 成子
 俳句
 刀工の齋の鎌鍛冶火床祭る 山田 孝
 菊売りの巻いて仕舞ひし布財布 金田 イト
 実石榴の裂けて朝日のこぼれけり 古川 綾
 ゆるやかにゆるやかに間引菜を洗ふ 成沢 素明
 秋晴や万歩に少し足らざりし 猪股 南魚
 枯葉風煮炊の香り運びけり 木村 トリ
 しよりしよりと暮のリズム落葉掃く 安沢 飛浪
 柚味噌焼く厨を覗く幸まかな 豊木サダ子
 小春日が丸き母の背包みけり 小林 光子

短歌
 立冬の時おりさす陽あびにつ、 太りよろしき大根どりす 小出龍四郎
 紅葉に姿かえても鳥の背に のって行きたし姉のよこはま 小出よしの
 溪合のせ、らぎ冬の陽を返し 白樺林に光はゆらぐ 中村 京